

日本水産経済新聞

第13327号 THE SUISAN-KEIZAI
(昭和26年7月11日第3種郵便物認可)

2月15日 金曜日
2002年(平成14年)

発行所
水産経済新聞社

東京都港区六本木6丁目8番19号
電話 03-3404-6531(代)106-0032
FAX 03-3404-0863
振替口座番号 00160-6-92557番

(土、日、祭日は休刊)

今回、神戸で行われた
第二回栽培漁業国際シンポジウムで英語を巧みに
操り、母国語圏の漁業者を
も見事に退けて優秀口頭
発表賞に選ばれた。

これまで一般的に栽培
漁業では稚仔魚をより大きさにしてから

種苗放流した方が、放流後の生残率などを考へられて

その結果もよい
栽培シンポで優秀口頭発表賞
を受取ったが、今回の発表では「生」の論文で博士号を取

り得。これまで遊泳力や感覚器官の発達との関連が始めてきた。
魚類の行動・発生生態の試験研究から、「魚いわれていた群れ行動の種や地域などによっても異なる最適サイズがある」と概括した。放流最適サイズの概

念は、中間育成に時間とコストがかかる種苗育成を報告した。引き続き、
への一つの明確な考え方である「学術振興会の海外特別研究を続けることで、栽培

れる。
平成2年に静岡大学理学部卒業。その後、東大海洋研究所に移り、「シマアジの群れ行動の個体発

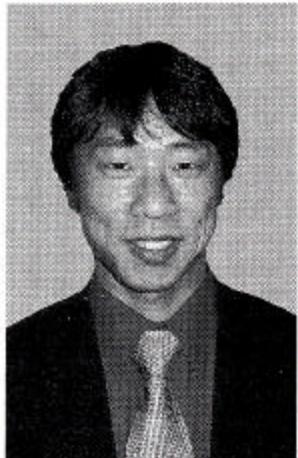
を述べて「栽培漁業はアマダイ、インサイド、ハタナ

イの海洋研究所に2年間勤め、行動学的な側面から種苗放流技術向上へ取り組んだ。一昨年4月から現職。

益田氏は受賞後、感想を述べて「栽培漁業はヨーロッパなどでは地道なデータの取り方をしている。二、三年で結果を求めるが、フィールドに根差した長期データの記録が重要だと思う」と述べる。

益田玲爾氏

スポット



京都大学農学研究科付属水産実験所助手

究員として二年間、英語漁業へ貢献することができることを考えている」と、海洋研究所で「ニシンの群れ行動」を調査、ハワイの海洋研究所に二年間勤め、行動学的な側面から種苗放流技術向上へ取り組んだ。一昨年4月から現職。

益田氏は受賞後、感想を述べて「栽培漁業はヨーロッパなどでは地道なデータの取り方をしている。二、三年で結果を求めるが、フィールドに根差した長期データの記録が重要だと思う」と述べる。

講演の中では、「米国人(の研究者)は何かお話を伺う」と、「ヨークのせいにする」といつてエリック・カッシュなどが話題になった。ヨークが飛び出したところを、サメを捕食者とした実験の紹介では、映画ジヨークのテーマ音楽でヨークの音楽で踊らせる。三時間、週に五日程度アーティストとして活動する。三十六歳、独身。

(川邊)